句仙　没古庵樗影

嘉永六年

世々の撰集ゟ歌仙抜き
ハ中ゟ此世ゟ代々ゟ代々ゟ代々ゟ
歌仙ゟ歌ゟ甚数の字ゟ句
ゟ歌ゟ歌ゟ代々ゟ代々ゟ
ゟ歌ゟ句仙ゟ名ゟ

こゝに其名四方に芳ばしき人々の
めでたき句どもを物しつゝ梓にす
後ちの人まなびのよすがにもとの
し

足乎庵
禾月尼

古池や蛙飛こむ水の音　芭蕉翁

梅一輪一りんほどのあたゝかさ　嵐雪

明星や桜さだめぬ山かつら　其角

雲水のうち
山伏優美の
まつり
五仲庵
みち芳

表ちう
の面
打ちる
蓄うれ
麦慰倉物通

芭蕉堂

公成

人を居らて

蕉の葉ハ

ゆきの中

清水園

芋吾

中ちた

自分

梅ハ去枝に

比良嶽
林曹

蘭や
恵のうちも
花うちも

八ノ坊
春山

ちらちら
鶯の夏来る
水鏡の月

松葉
素屋

五月雨や蓬
いのちとし
嬉う恵

新玉の年も
重箱の中老の上

槐蛍悠〻

蓬山
新樹
蓬山

元日也
酒も
重箱も
紅白も

俵藤太
神殿
ちゝ
ぢの
俵自井 蓬宇

時之庵　三宇

日の筋や
千浮世
春乃
宝賊乃

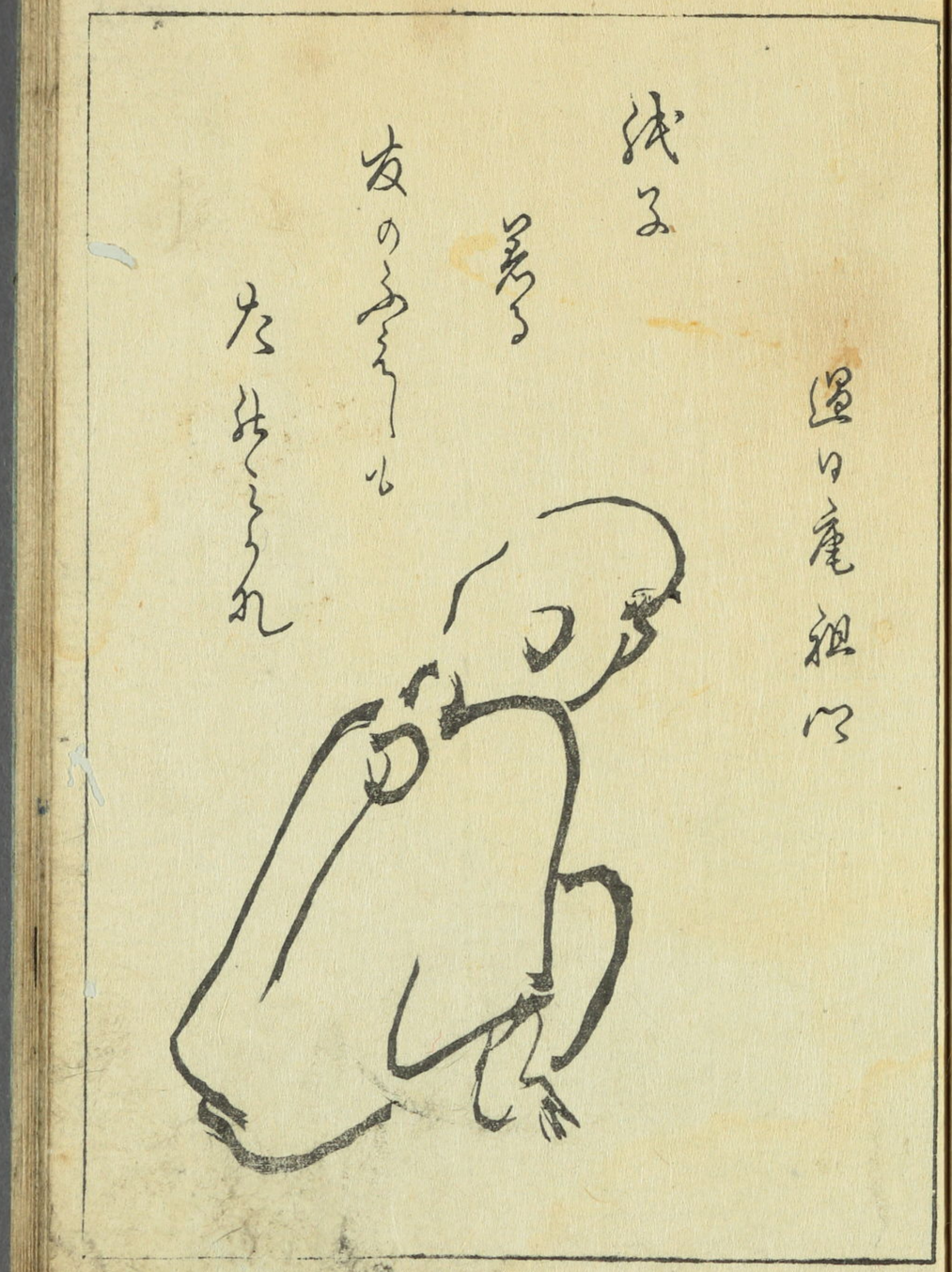
出行れ
色あり
春乃
高根さく

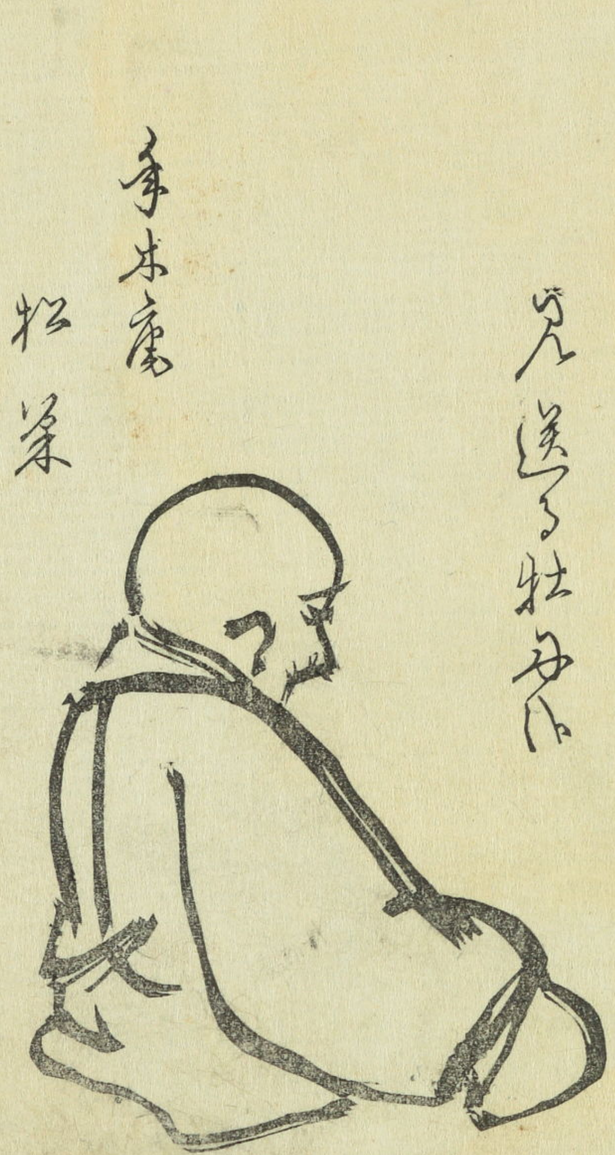
時雨一具

為雄庵
由紀

何うもゆつくりする
なんぞ茶のみ

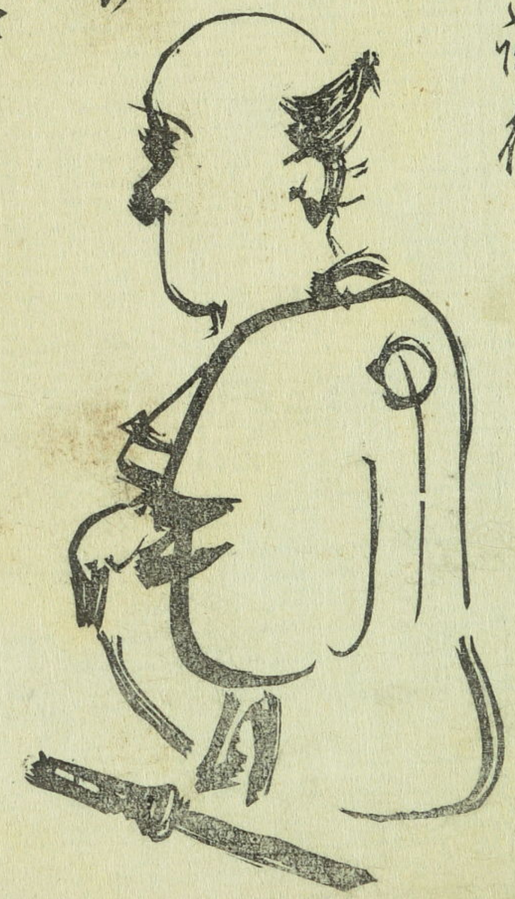
可布庵
逸洞





八葉 謝徳

つりの秋の
うつゝ時雨
ちるも歩行



雪ふる
笑の
水仙
秋の影
宣笑庵
乙良

一南

自出の

陸奥國
高代女

五物屋書用

人形
たてし
西鶴の作
踊り

誰の来て机の
のせて一葉うれ
吳子庵
東自在

夜川を載せ蛙きゝ手水桶後　蕉村

呉竹の呉くれみたのみ玉祭　耀良

蟬聲も下枝分れて意也知る　大江丸

和嬢也ちいさく結ぶ髪れる　白雄

蕉の秋也芋ほり上りて　晩菊

月雲ふて星出る秋の闇　文

乙鳥の巣くうて歌集　蕉志

脚も見ぬ行方の角田川　芝青

各魚のかゝ[illegible]成英

海若ゆめ[illegible]乙乙

[illegible]の[illegible]地[illegible]戸[illegible]

[illegible]の[illegible]菊之

少[illegible]埠　みさ[illegible]　栄北

明[illegible]月居

[illegible]の[illegible]

横[illegible]の[illegible]　[illegible]

名月の白しきりに白之粒　可整

かしこの垣根は赤い彼岸　垣九

赤蜻蛉　かるくよりきき老の杖　完来

遊佐さまより　なを長の蓮　寿洲

白い皆祝ふ小俳　俳家和　茅和

新戸出せ惟子宮さき本の宗　篤老

掛さ行る第義子教の者さ　蓬外

蓼せよくこのさらめる義の秀　一茶

元安寺の住僧祈願四人

稲毒州羅漢時の作なり　白塔

月夕長水鶴時来の猿社上　素堂

夢中時く杉の精来る　桃堂

霜を出づる月や夕の時雨　蓼丸

如帰や物社に来て霞山　雪朗

掃き寄せて移す稲雀　蓼松

芝遠う袖社に来る若い孔　桃堂

自代也一阿[illegible]のこと　李白

[illegible]尽[illegible]謝生

僧[illegible]蕉の一本　蕉白

[illegible]の水[illegible]　土朗

[illegible]尽[illegible]月[illegible]

[illegible]時雨

水[illegible]秋[illegible]夕[illegible]

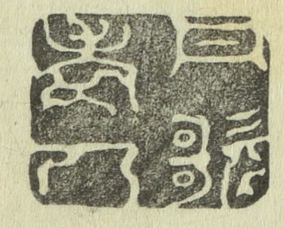
[illegible]世[illegible]

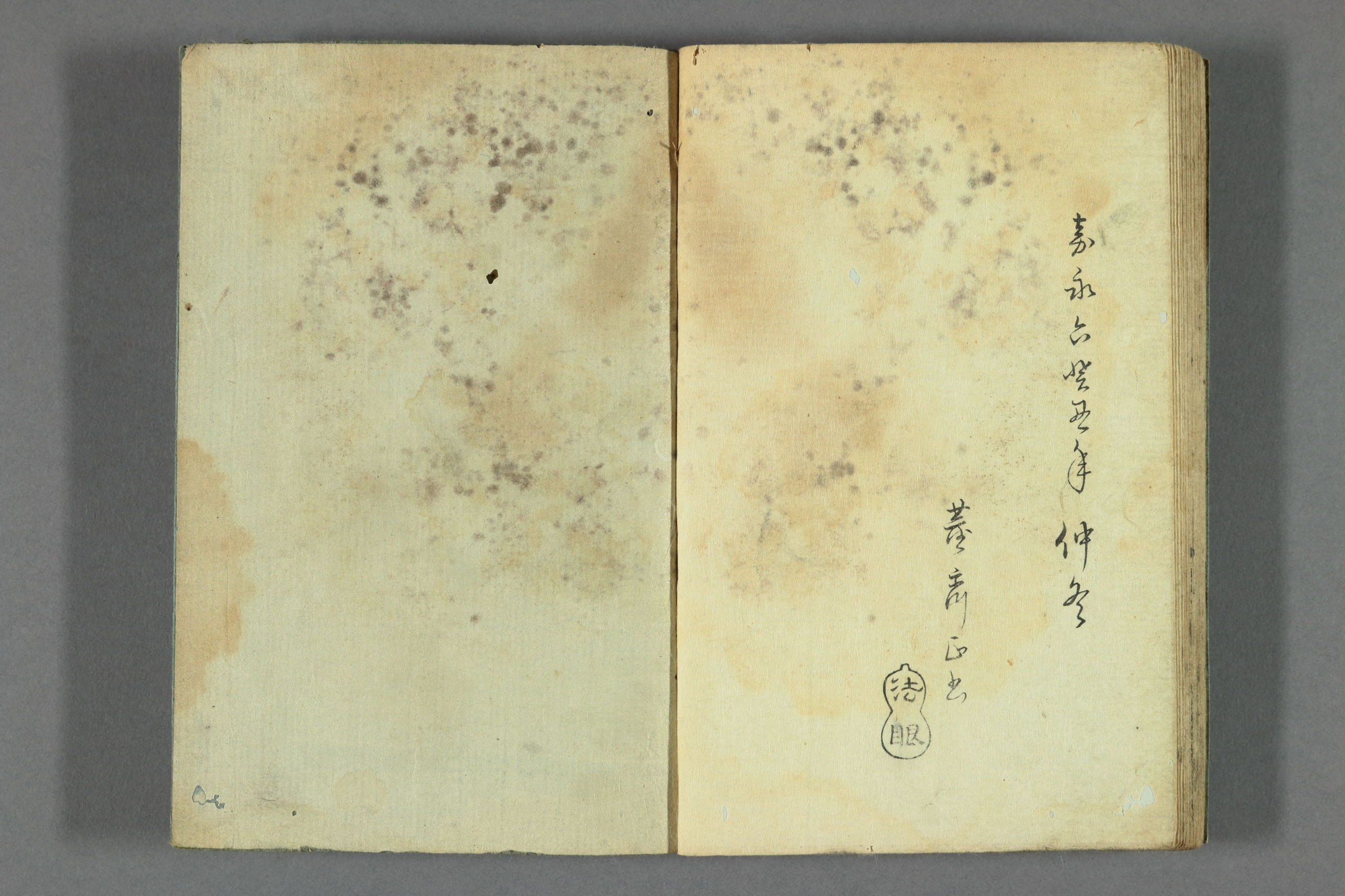
仮古庵樗郎

みちの行く橋新敷海内の宴し
人々の後の世を思ふにそれ
世風雅の道しるべかなるべ
き歌の子孫百代重なれる
あとを志して覚束なく筆
をとるに小筆の焼下の
志

志ばらく只なほ我ら
業成具をもたるあれば橋新
敷の子孫ならんの子
孫

寛政三年春
松巣




壽永六甲辰年仲冬
藝齋正史
洁眼